

..... 編集後記

◆「月に^{むらぐも}叢雲，花に嵐」の季節が到来しましたが、皆さんの所はどうか。中国青島の海洋研究所から来た人に、桜が咲いている時、寒くなった日を「花冷え」と言うと説明しましたが理解してもらえませんでした。英語が駄目なら漢字でと筆談しましたが、それでも通じず、中国にはこんな風流な言葉はないのだろうと諦めました。これも言葉の話ですが、地震の研究者と活断層の話をしている時、彼が「医者が断層写真という言葉を使うのは間違っている。」と言って断層の定義を話してくれました。その時は面白い話だと納得しました。でも、よく考えて見ると、地質の断層は「層を断つ」で、医者のは「層に断つ」であり、ヲとニの違いでどちらも正しいのではないかと思います。自分の世界だけで物事を判断すると間違いが起きそうです。

◆さて、最近、行政改革という嵐が静かに近づいています。報道では省庁再編が取り上げられていますが、国立研究所も無関係ではられないようです。英国でも同様な事態が起こり、その時の話を元英国地質調査所長のクック博士がつくばで講演してくれました。その内容を小玉氏と花岡氏が紹介してくれています。講演題目は地質調査所の今後に関するものになっていますが、話の内容は地球科学の存続を思考する我々にとって大変有益なことが述べられていますので参考になればと思います。

◆須藤氏は東南アジア地域の鉱物資源情報の取りまとめを精力的に取り組んでいる人です。国内では金属鉱山がほとんど無くなってしまい、外国に資源を依存しなければならない我が国にとって、このような情報は貴重でしょう。今回はミャンマー情報です。ご活用下さい。

◆阪神大震災から3年余が過ぎ、その記憶が次第に風化してきているように思えます。服部氏はこの地震でどのような地変が起きたか、その原因はなにかを詳細な現地調査に基づいて考察しています。ご本人は異説だと言っておられますが、これを機会に新たな前向きな議論がなされることを望みます。

◆ライマン雑記の副見さんからお手紙を頂きました。それによれば、秋には来日されるとのことですので、読者の方から希望がありました。著者紹介について相談してみたいと思っています。ライマン雑記を読みますとライマンの日本人の弟子(友人)に対する心情に心打たれます。今回はアメリカ文化と日本文化の狭間で悩む賀田貞一の話が紹介され、今でも同じ状況があると書かれています。人間の心は進化しないものなのでしょうか。

◆アルプスの白い滝発見記、オマーンのオフィオライトについての記事も掲載されています。ご一読下さい。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第524号	1998年	4月号
		定価¥785(本体価格¥748)	〒実費
1998年4月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。